# 「大阪市版ネウボラ」の実施に 向けた検討について

区長会議 こども・教育部会 「大阪市版ネウボラ」検討ワーキング

### 「大阪市版ネウボラ」検討ワーキングの結果について(目次)

1.	はじめに・・・・・・・・・P1
	① ネウボラとは
2.	「大阪市版ネウボラ」検討ワーキングの設置・・・・・・・・・・・・P 2~3
	① 経過
	② 設置目的
	③ ワーキングメンバー
	④ 「大阪市版ネウボラ」検討ワーキング開催実績
	⑤ 「大阪市版ネウボラ」検討ワーキングの検討経過について
3.	国及び他の自治体の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P4~7
	※日本版ネウボラとフィンランドのネウボラとの相違点
	② 他自治体
	● 千葉県浦安市の取組
	● 東京都文京区の取組
	● 山梨県甲斐市の取組
4.	● 山梨県甲斐市の取組 本市の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 8 ~12
	① 大阪市における「(仮称)子育て包括支援センター」のあり方の検討経過について
	② 大阪市保健師の体制とその活動
	③ 大阪市 24 区における現状:「乳幼児期における各区独自の取組状況」調査結果
5.	本市におけるネウボラ的取組事例の検証・・・・・・・・・・・・ P13~18
	● 西淀川区保健福祉センター
	● 港区保健福祉センター
	● 住吉区保健福祉センター 全区での取組展開に向けた検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P19
6.	
7	② 取組の方向性 検討結果:「大阪市版ネウボラ」の展開について・・・・・・・・・・・・・・P20~25
7.	
	① 平成31年度より全区で実施する取組
	取組1:地区担当保健師との信頼関係の強化
	取組1-① 母子健康手帳に地区担当保健師名を明記
	取組1-② 妊婦面接時に地区担当保健師を周知・地区担当保健師顔合わせ
	取組1-3 妊婦面接時に保健師につながる電話番号の登録勧奨
	取組1-④ 妊婦面接の標準化
	取組2:子育て家族支援の充実 取組2-① 「パパと子手帳」に地区担当保健師名を明記し、父親の育児参加などを促す
	取組2-② 相談しやすい環境をつくる
	取組2一③ 出生届時に地区担当保健師紹介
	② 平成31年度より可能な区で実施する取組
	取組1-⑤ 乳幼児健診個別面接を地区担当保健師が実施
	取組2-④ 乳幼児健診の家族同伴参加の勧奨
	取組 2 一⑤ 両親教室の開催 ③ 平成 31 年度よりモデル区で実施する取組
	取組1-⑥ 妊婦相談の予約制の試行実施
0	取組1-⑦ 地区担当保健師複数化の試行実施 引き続き検討を要する課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
9.	今後のスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 26

## 1. はじめに

#### ① ネウボラとは\*

- ・フィンランドでは、妊娠期から子育て期に至るまでの切れ目のない手厚い支援がなされている。 この支援の中核をなしているのが、「ネウボラ」である。
- ・「ネウボラ」とは、フィンランド語で「アドバイスする場所」という意味で、切れ目のない支援 をワンストップで行う制度とそのための地域拠点そのものも指している。
- ・フィンランドでは、妊娠がわかれば病院ではなく「ネウボラ」に行き、同じ担当ネウボラ保 健師が継続してサポートし、母子の支援に留まらず、家族全体の支援が行われている。
- ・このフィンランドでの「ネウボラ」の歴史は1920年代の内戦での劣悪な環境から子どもたちを守るため、民間の医師や保健師らの取り組みから始まり、1922年の8か所から1944年には300か所に増え、同年から地方自治体にネウボラの設置が義務付けられた。このことより、国内どこでもサービスが受けられ当初から利用は無料であった。
- ・現在では、フィンランドは妊産婦や乳幼児死亡率が最も低い国で、ネウボラサービスがその 要因のひとつであり、こどもとその家族全体を捉えた育児支援は、乳幼児の虐待予防におい ても重要な役割を果たしていると考えられる。

#### 表 フィンランドの妊産婦・子どもネウボラの特徴\*

目的	妊娠期から就学前までの子どもの健やかな成長・発達の支援とともに、				
	母親、父親、きょうだい、家族全体の心身の健康サポートも行う				
内容	<b>内容</b> ・健診: 産前産後に11回、こどもが1歳になるまで9回、1歳以降に				
	年1回				
	・相談:健診時の親子の医療的なチェックとともに、個別に出産や育児、				
	家族(夫婦関係、親子関係、生活習慣など)に関する相談に応じる				
	・保健機関の窓口として、出産入院のための病院指定、医療機関や専門				
	家の紹介を行う				
特徴	同じ担当保健師が継続的にサポート				

\*「フィンランドのネウボラから学ぶ母子保健のメソッド」より引用改変

## 2. 「大阪市版ネウボラ」検討ワーキングの設置

#### ① 経過

- ・市長指示により、部会において平成29年度より「大阪市版ネウボラ」の検討を開始。
- ・平成30年2月 西淀川区において、保健師の顔の見える化に向けて、集合写真を活用した 取組を試験的に実施。
- ・平成30年5月24日 市長定例会見において、西淀川区の取組を全市に拡げるため、 「大阪市版ネウボラ」検討ワーキングの設置について公表。

#### ② 設置目的

- ・「保健師との顔の見える関係づくり」については、西淀川区でのモデル実施に係る検証を行い、 平成31年度当初からの全区展開に向けて、具体的な手法を提案する。
- ・並行して、「妊娠期からの切れ目ない支援」に係る取組状況を調査・検証し、「大阪市版 ネウボラ」のあるべき姿についても検討を行う。

#### ③ ワーキングメンバー

ワーキング会議

区長会議こども・教育部会長(旭区長)花田 公絵(リーダー)西淀川区保健福祉センター所長山本 智紀(サブリーダー)港区保健福祉センター所長幡多 伸子住吉区保健福祉センター所長山本 歩健康局保健指導担当部長藪本 初音こども青少年局子育て支援部長高井 俊一

実務者会議

都島区役所健康推進担当課長(保健業務主管課長会代表)坂下 克 生野区役所保健福祉課担当係長(地域保健活動担当係長会 東ブロック代表)七堂 美香 大正区役所保健福祉課担当係長(地域保健活動担当係長会 西ブロック代表)吉田 あゆみ 住吉区役所保健主幹兼保健福祉課担当係長(地域保健活動担当係長会 南ブロック代表)清水 美子 淀川区役所保健副主幹兼保健福祉課担当係長(地域保健活動担当係長会 北ブロック代表)宮川 淳子 西区役所保健福祉課担当係長(地域保健活動担当係長会 中央ブロック代表)永石 真知子

健康局健康推進部健康施策課長 寺澤 昭二

健康局健康推進部健康施策課担当係長 足立 礼子

こども青少年局管理課長 吉田 政幸

こども青少年局管理課保健副主幹 仲間 いずみ

・アドバイザー

大阪市立大学大学院看護学研究科教授 横山 美江

#### ④ 「大阪市版ネウボラ」検討ワーキング開催実績

平成30年6月下旬 妊娠期からの切れ目ない支援取組状況各区調査 第1回「大阪市版ネウボラ」検討ワーキング・実務者合同会議 平成30年6月29日 第2回「大阪市版ネウボラ」検討ワーキング会議 平成 30 年 7 月 18 日 平成 30 年 7 月 24 日 第2回「大阪市版ネウボラ」検討実務者会議 平成 30 年 8 月 16 日 第3回「大阪市版ネウボラ」検討ワーキング会議 平成 30 年 8 月 28 日 第3回「大阪市版ネウボラ」検討実務者会議 平成 30 年 8 月 ~ 9 月 母親教室視察 (医療機関3箇所) 平成 30 年 10 月 16 日 第4回「大阪市版ネウボラ」検討ワーキング会議 平成 30 年 10 月 27 日 ネウボラ研修 平成 30 年 10 月 31 日 第4回「大阪市版ネウボラ」検討実務者会議 平成 30 年 11 月 15 日 第5回「大阪市版ネウボラ」検討ワーキング会議 平成 30 年 11 月 29 日 第5回「大阪市版ネウボラ」検討実務者会議 平成 30 年 11 月 30 日 第6回「大阪市版ネウボラ」検討ワーキング会議 第7回「大阪市版ネウボラ」検討ワーキング会議 平成 30 年 12 月 14 日

## ⑤ 「大阪市版ネウボラ」検討ワーキングの検討経過について

	ワーキング	実務者会議	その他
6月	6月13日 準備会 ・ワーキングの進め方について確認 ・各区の独自取組の現状を把握していく 6月29日 1回目開催 ・各区の独自取組の状況概要確認 ・フィンランドのネウボラについて 【 横山アドバイザー講師での講習 】	6月8日 保健業務担当課長会に協力依頼 6月20日 地域保健活動係長会に協力依頼 6月29日 1回目開催 ワーキングと合同開催	
7月	7月18日 2回目開催 各区の取組から見えてきたことを議論 ・すでに各区の実情に合わせた「保健師との顔 の見える関係づくり」を実施している ・家族支援の取組が求められている ・妊婦教室など民間での取組と重なるものがあ る	7月24日 2回目開催 ・地区担当保健師制の強化として、 妊婦面接の予約制など具体的な 内容を議論する 見えてきたこと ・保健師業務の標準化や見直しの 必要性 ・子育て支援室との連携の必要性	
8月	8月16日 3回目開催 大阪市版ネウボラの取組方針案の議論 他自治体の取組事例について共有する ・ネウボラ ・父子手帳	8月28日 3回目開催 大阪市版ネウボラの取組方針案の 議論	医療機関における 母親教室の視察
9月	<ul> <li>こども・教育部会に中間報告(9月12日)</li> <li>市長・副市長に中間報告(9月18日)</li> <li>区長会に中間報告(10月26日)</li> <li>中間報告</li> <li>取組方針を「市で統一:局」「市で統一:区できするものに区別して、進め方を議論していくこと</li> </ul>		
10 月	10月16日 4回目開催 大阪市版ネウボラの今後の進め方について議論 ・地区担当保健師制の強化 ・家族への支援	10月31日 4回目開催 「区で手法選択」する取組について の具体例を検討	10月27日研修開催 講師 トゥオビィ・ハクリネン氏 横山アドバイザー
11 月	11月15日 5回目開催  「区で手法選択」する取組について議論 ・「パパと子手帳」の活用について議論 ・区でのモデル取組状況(西淀川・港区) 11月30日 6回目開催 ・「区で手法を選択」する取組 ・妊婦面接の標準化 ・ワーキングの最終報告(案)検討	11 月 29 日 5 回目開催 妊婦面接の標準化・予約制 その他、妊婦教室などについて議論	11月20日 地域保健活動担当 係長会で議論 その他の検討事項 について
12 月	<b>12 月 14 日 7 回目開催</b> ・ワーキングの最終報告(案)検討 ・今後のスケジュール		